

氏名	大前健一
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第5473号
学位授与の日付	平成29年3月24日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Long-Term Survival after Radiofrequency Ablation of Lung Oligometastases from Five Types of Primary Lesions: A Retrospective Evaluation (5種の原因巣からのオリゴ肺転移に対する肺ラジオ波焼灼療法の長期成績の後方視的検討)
論文審査委員	教授 三好新一郎 教授 堀田勝幸 准教授 金廣有彦

学位論文内容の要旨

オリゴ肺転移に対するラジオ波焼灼療法の治療成績について、後方視的に検討を行った。

対象は5種類の原発巣（結腸直腸癌、非小細胞肺癌、肝臓癌、食道癌、腎癌）からのオリゴ肺転移の患者で、全ての肺転移をラジオ波焼灼療法で加療した123名。

全体および原発巣毎の生存率および無再発生存率を求めた。また、年齢、性別、転移の数、最大腫瘍径、転移の既往、同時あるいは治療後化学療法、原発巣の治療から初回肺転移出現までの期間が予後に与える影響を検討した。

経過観察期間の中央値は45.7ヶ月で、全体の5年生存率は62%、無再発生存率は25%であった。疾患毎では大腸癌からのオリゴ肺転移の生存率は他の4種類の原発巣からと比較して有意に高く、食道癌では低かった。原発巣の治療から転移の出現までの期間が長いほど生存率が高かった。多変量解析では生存率および無再発生存率に影響を与える因子は認められなかった。

5種の原発巣からのオリゴ肺転移に対するラジオ波焼灼療法の長期成績は、期待できるものであった。

論文審査結果の要旨

本研究は5個以下の肺転移を有する場合をオリゴ肺転移と定義し、5種類の原発巣（結腸直腸癌、非小細胞肺癌、肝臓癌、食道癌、腎癌）からのオリゴ肺転移123例についてラジオ波焼灼法(RFA)の治療成績について後方視的に検討したものである。その結果、RFA施行後5年のover all生存率(OS)は62%、無再発生存率(RFS)は25%であった。疾患毎の検討では、直腸大腸癌からのオリゴ転移が他の4種より有意にOSが良好で、食道癌のOSが有意に予後不良であった。予後因子の単変量解析では、原発巣の治療から転移出現までの期間が長いほどOSが良く、RFSでは転移個数が少ない方が予後良好であった。多変量解析ではOS、RFSの予後に影響する因子は認めなかった。本研究結果はオリゴ肺転移に対するRFAの有効性を示した重要な知見であり、意義あるものと認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。